

## 23 . 薬学系研究科

薬学系研究科の教育目的と特徴	・・・	23 - 2	
分析項目ごとの水準の判断	・・・	23 - 3	
分析項目	教育の実施体制	・・・	23 - 3
分析項目	教育内容	・・・	23 - 7
分析項目	教育方法	・・・	23 - 8
分析項目	学業の成果	・・・	23 - 10
分析項目	進路・就職の状況	・・・	23 - 12
質の向上度の判断	・・・	23 - 14	

## 薬学系研究科の教育目的と特徴

(薬学系研究科の教育目的)

1. 薬学は、医薬の創製からその適正使用までを目標とし、生命に関わる物質及びその生体との相互作用を対象とする学問体系である。薬学系研究科は薬学の全ての分野において、最高水準の研究活動を行い、これに裏付けられた教育活動により、創薬科学及び基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献する人材、高層医療を担う薬剤師の養成を教育目的とする。本研究科は先端的な研究を重視する伝統があり、これを大学院教育に反映させて日本の薬学研究をリードする多様な研究者を育成する教育を行っている。
2. 本研究科は、三つの専攻に分かれており、各専攻の教育目的を資料 23 - 1 に示す(別添資料 23 - 1 : 東京大学大学院薬学系研究科規則(抜粋)、P23 & 15)。

(資料 23 - 1 各専攻の教育目的)

(薬学系研究科の特徴)

3. 薬学部学生は、薬学系研究科への進学率が非常に高く、優遇課程は超過90%以上、博士課程進修者も約5%が進学して頂戴する。しかし、本研究科は他大出願者にも広く門戸を開放しておいて、様々な他学部や他学部の優秀な学生を積極的に受け入れる。

分析項目ごとの水準の判断

分析項目 教育の実施体制

(1) 観点ごとの分析

観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

薬学は、医薬の創製からその適正使用までを目標とする幅広い学問体系であり、輩出する人材にも多彩な知識、技術、経験が求められる。そのため、分子薬学専攻、機能薬学専攻、生命薬学専攻の三つの専攻に分かれ、専門の分野に軸足を置きつつ、他分野についても十分な学習ができるような体制となっている。最新の研究領域を含む薬学の多彩な研究分野をあまねく網羅するだけでなく、他に類を見ないユニークな社会薬学系も充実している。さらに、学際的学問である薬学研究を大きく展開するため平成20年度より「統合薬学専攻」を新設する(資料23-3:統合薬学専攻の目的、別添資料23-2:統合薬学専攻新設の目的と位置付け、P23-17)。

(資料23-3:統合薬学専攻の目的)

本研究科に所属するほとんどの教員は薬学部で研究・教育も担当する組織編成になっている。構成員は基幹教室の専任教員(教授、講師、助教)及び寄附講座(連携客員講座を含む、以下同じ)の客員奨励員

(資料 23 - 5 : 大学院薬学系研究科の定員と大学院学生数)

(資料 23 - 6 : 在職中の助教の年度別採用状況)

平成 19 年度	平成 18 年度	平成 17 年度	平成 16 年度	平成 15 年度 以前
9 人 (22%)	13 人 (32%)	3 人 (7%)	3 人 (7%)	13 人 (32%)

**観点 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制**

(観点に係る状況)

大学院学生の研究・教育指導は、講義だけでなく所属研究室の指導教員による極めて密度の高い指導、すなわち一流の研究者になるための教育が研究を通じて行われている。教務委員会は大学院における教育全般の課題を扱うと同時に、上記の研究室における教員による大学院学生の指導を側面から支援している(資料 23 - 7 : 教務委員会)。

(資料 23 - 7 : 教務委員会)

また、ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の一環として、ハラスメントに関する 梗忖 情聴餼臙脛 情聴餼臙脛 通 て て ・デ

判断できる。しかし、授業の難易度では大多数が適切と回答している一方で、約 20%が難しいまたはやや難しいと感じており、進学時において学生間に知識の偏りが見られる（資料 23 - 10: 大学院講義に対する授業評価アンケート結果(1)）。この点の改善を目的とし、平成 20 年度から基礎薬科学と先端薬科学の講義をバランス良く配置した（別添資料 23 - 5 : 大学院授業科目の改革、P23 - 20）

（資料 23 - 8 : 平成 19 年度のファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況）

（資料 23 - 9 : 総合薬科学推進諮問会議）

メンバー：宇井理生（議長）、金澤一郎、岸義人、平岡哲夫

提言とそれに対する対処事例：

- ・ 「大学院学生に対する経済的支援を考慮すべきである」 21 世紀 COE プログラムなどで博士課程大学院学生に月額 8 万円の経済的支援を実施した。
- ・ 「薬学の伝統領域だけでなく、引き続き医療関連および社会科学関連分野を充実させるように」 医薬品評価科学講座および薬政策学寄付講座を新設、創薬理論科学寄付講座を継続させた。 崎 織襪 伝聚>

(資料 23 - 10 : 大学院講義に対する授業評価アンケート結果 ( 1 ))

5 : 優れている、4 : やや優れている、3 : 普通、2 : やや劣っている、1 : 劣っている

分析項目 教育内容

(1) 観点ごとの分析

観点 教育課程の編成
------------

(観点に係る状況)

修士課程の修了要件は各専攻共通で30単位であり、講義が10単位、特別実験が16単位、演習が4単位となっている。専攻ごとの授業科目を別添資料 23 - 1 の別表 (P23 - 16) に示す。先端的な研究分野を含め、薬学の幅広

機会を提供している（別

（資料 23 -

(2) 分析項目の水準

(水準) 期待される水

(判断理由) 大学院

改善を行ってお

義を増やすこと

薬研究者として

基礎薬学

ることは、大 院修了者

20、P23 - 17)。ま

がら研究 動の進

も成果を上げ

「医療

機会を

「社会人の学び

けでなく、経験

分析項目

(1) 観

観

(観

各

通常の講義や演習の他に、外部より優れた研究者を招いて開催するセミナーや大学院薬学系教員が主催する国内・国際学会に、分野が近い大学院学生は演習として、また他の分野の大学院学生も積極的に参加することを奨励しており、さらち 馄嚟馗恆轟

大学院学生がいつでも自主的な学習ができるように、図書館は休日でも、午前7時30分より午後11時まで、学生証(ICカード)により利用できるようにしている。

(2)分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を大きく上回る。

(判断理由) 本研究科の教育法の特徴は、薬学における指導的立場の人材を育成するために講義のみならず、議論を主体とした演習及び国内外での自己研究発表を重視している。

次項の「観点 学生が身に付けた学力や資質・能力」でも示すように、大学院学生は卓越した研究成果をあげており、本研究科の教育システム(講義、演習、セミナー、国際交流、

教育環境の整備・充実など)が十分に機能し、主体的な学習を促す取組が多大な成果を挙げ

ている。各講座単位で行われる演習は非常に密度が濃いものであり、教員や大学院学生同士の対話の討論を通じて、知識の習得だけでなく、研究能力の向上に役立っ

ている。こうした厳格ながらも暖かみのある指導教育体制は、教員も学生も共に成長を遂げ、

(資料 23 - 16 : 博士課程大学院学生が過去 4 年間に発表した主な雑誌の論文数)

Journal of the American Chemical Society	56
Journal of Biological Chemistry	28
Angewandte Chemie Intep <sup>TM</sup> •"#—†à	



観点 関係

(観点に係

大学院修

願いし

## 質の向上度の判断

事例1「高いレベルの資質・能力を有する人材の継続的な輩出」(分析項目 )  
 (質の向上があつたと判断する取組) と

資料 23 - 15 ~ 17 ( P23 - 10 ~ 11 ) に示されるよう高水準の研究の優れた教育システムにより高い教育水準が維持され、その結果として、本研究科の大学院学生は多数の学会発表をし、著名な雑誌に論文発表を行い、種々の受賞を受け続けており、採用されることが難しい大学、研究所、製薬企業に多数就職している。継続的な高水準の採用と指導的人材の確保供給を希望するこれらの関係者の期待に響いている。また、それが他大学からの入学希望者の増大に繋がっている。

事例2「FDによる継続的な大学院講義などの改善」(分析項目 )  
 (質の)